

動画解説まとめ 21 / AI活用

Codexで仕事を形にする 初心者向け実演まとめ

サイト、ゲーム、請求書ツールの制作実演から、Codexへの任せ方を整理。作業用フォルダー、設定、定期作業、マニュアル化など、日々の仕事に使う流れをまとめました。

この動画の要点

りょうやさんがCodexの導入と使い方を実演する動画です。文章で答えてもらうだけでなく、サイトやゲーム、請求書ツールなどの完成物を作る例を紹介しています。作業用フォルダーの準備、使い方に合う設定、音声入力や遠隔操作、定期的な調査、過去の見本を使ったマニュアル化までを整理しました。後半の試作ツールには不具合もあり、画面が完成したことと、中の処理が正しいことを分けて確認しています。

01 目的と完成物を伝え、制作後に実際に開いて確認する。

02 作業用フォルダーを決め、完成物の置き場所を明確にする。

03 繰り返す調査は定期作業へ、繰り返す制作手順はマニュアルへ分ける。

04 過去の見本を渡すと、欲しい形式に合わせやすくなる。

05 見た目が完成しても、入力や結果の動作確認は必要。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：超初心者でも使えるAIエージェントチャットGPT Codexの使い方超初心者向け徹底解説!!【ChatGPT】

<https://www.youtube.com/watch?v=G4EIn8ZQtro>

回答だけでなく、使えるファイルまで作る

動画の該当箇所 5:00 / タップして開く

動画ではAIエージェントを、回答を返すだけでなく作業を進めるAIとして説明しています。最初の実演は、Codexを紹介するページを作ってほしい、まずできることの情報を整理してから作ってほしい、という依頼です。調べることと制作を、目的のある一つの仕事として渡しています。

完成したページはブラウザで開き、ボタンで該当箇所へ移動することや表示を確認しています。商品やツールの紹介、使い方、ダウンロード案内をまとめるページへ応用できるという話です。ただ作れたことに驚いて終わらず、何を使ってもらうためのページなのかまで考えています。

次はキャラクター画像を添え、ゲームの主人公として使う依頼です。ジャンプやゴール、得点などが動くことを実際に遊んで確かめています。さらにBGMや敵、難易度などを追加できると話していますが、初回の実演で動いた機能と、その後に加えられる案は区別されています。

- ・ 完成物を具体的に伝える。
- ・ 必要な画像などの材料を添える。
- ・ 出来上がったページやゲームを実際に操作する。
- ・ 追加したいことは、最初の完成物を見てから伝える。

作業を行うフォルダーを決める

動画の該当箇所 12:02 / タップして開く

導入の実演では、ChatGPT側のCodexメニューからアプリのダウンロードへ進み、インストールしてログインしています。その後、新しいプロジェクトを追加し、名前を付けて作業用のフォルダーを準備します。画面や利用できるプランは撮影時点のものです。

動画で強調されるのは、Codexがパソコンのフォルダーと結びついて作業する点です。サイトやゲームなど、作ったものがどこに保存されるかを最初に決めておくと、会話の中だけに成果物が埋もれにくくなります。完成物を後から開いたり、別の仕事に使ったりするための準備です。

設定についてはすべてを覚えようとせず、普段の作業に関係する部分を選んで確認しています。動画の手順を参照する際も、同じ名前の項目が現在の画面にあるとは限らないため、役割を理解しながら見る資料として使えます。

- ・ アプリへログインする。
- ・ プロジェクト名を決め、作業する場所を用意する。
- ・ 完成物をどこに保存したか確認する。

日常業務に合わせて、操作と利用量を調整する

動画の該当箇所 14:05 / タップして開く

りょうやさんは撮影時点の設定で、日常業務向けの作業モード、日本語表示、作業中のスリープ防止、長文の誤送信を避ける設定などを紹介しています。改行したつもりで送信してしまう、といった普段の使いにくさを減らすための項目です。

権限については、何でも許可する設定より、必要な確認を残す使い方を選んでいきます。毎回の確認が多い場合の選択肢として自動レビューを紹介していますが、大切な操作まで無条件に実行させることを前提にはしていません。ブラウザーやパソコンの操作には、それぞれの接続や設定が必要であることも画面で見せています。

速度や考える深さについては、速さや高い設定だけを追わず、利用上限とのバランスを説明しています。残りの使用量を確認する画面も開いています。いくつかの作業をどれくらい任せるかによって使い方が変わるため、実際の残量を見て調整するという考え方です。

- ・ 誤送信やスリープなど、日々の操作の困りごとを減らす。
- ・ 許可する操作の範囲を確認する。
- ・ 速度や思考の設定は利用量も見て選ぶ。

音声、画面、スマホから依頼する

動画の該当箇所 17:04 / タップして開く

音声入力では、割り当てたキーを押しながら話し、文字へ変換する実演があります。名前など認識されにくい単語は辞書へ登録する話もあります。文字入力の速さだけでなく、思いついた内容をそのまま依頼へ落とす使い方として紹介されています。

画面を添付して質問する機能も見せています。新しいサイトでどのボタンを押すか分からないなど、画面の状態を言葉だけで説明しにくいときに、その画面を材料として渡す考え方です。動画内で示すキー操作は、撮影時点のMacでの実演です。

スマホからは、AIの出力形式を解説する記事の下書きを作るよう依頼しています。数だけを無理にそろえるのではなく、必要なら項目数を減らしてよいこと、専門用語には説明が欲しいことも伝えています。完成後にデスクトップへ保存するよう追加で頼み、パソコン側でファイルがあることを確認します。本人はそのまま公開せず、下書きとして修正すると話しています。

- ・ 話して依頼文を入力する。
- ・ 見えている画面を材料にして質問する。
- ・ 文章の内容だけでなく、保存場所まで指定する。
- ・ 保存した完成物を開き、人が仕上げる。

定期作業と外部サービスの接続を使う

動画の該当箇所 27:03 / タップして開く

オートメーションの例として、毎朝のAIニュース収集、投稿ネタの発掘、活用事例の整理などが紹介されています。実演では、あべさんのチャンネルの新しい動画を定期的に調べる仕事を作っています。毎回同じお願いをする作業を、繰り返す仕事として登録する使い方です。

プラグインは、メールやファイル、カレンダーなどの外部サービスにつなぐ機能として紹介されます。単にサービス名を知っていることと、自分の情報へ接続して操作できることは別なので、使いたいサービスを選んで接続する段階があります。動画では接続できる例を見せており、あらゆるサービスの設定手順までは扱っていません。

チャットの整理では、ピン留め、分かりやすい名前への変更、未読へ戻す機能、別のウィンドウで開く機能も説明しています。依頼を増やすほど、進行中のものと後で見るものが混ざりやすくなるため、作業を見失わないための工夫になります。

- ・ 何を、どの頻度で調べたいかを決める。
- ・ 必要なサービスだけを選んで接続する。
- ・ 進行中や見返したい会話を、名前やピン留めで整理する。

過去の見本を、繰り返せる作業手順にする

動画の該当箇所 30:00 / タップして開く

スキルは、普段の作業をマニュアル化し、その手順をもとに実行してもらう仕組みとして説明されています。りょうやさんの例は、マニュアルを作るためのスキルです。単にマニュアル化してと頼むだけだと形が毎回変わるため、過去に自分が作った見本を渡して、同じ形式へ近づけています。

続いて、自分の仕事の状況を整理する秘書のような使い方を見せています。現在何をしているかを確認し、次の仕事を考えるだけでなく、どんな作業をスキル化できそうかを質問しながら整理する例です。最初からすべての手順を完璧に決めるというより、自分の反復作業を見つけるところから始まります。

このパートでは、見本のある作業を再現することと、時間を決めて調査するオートメーションを分けて理解すると使いどころが明確です。前者は作り方や品質をそろえること、後者は同じ仕事を定期的に行うことに主眼があります。

- ・ 繰り返している仕事を挙げる。
- ・ 過去に良かった完成物を見本として渡す。
- ・ どの形式や順番を再現したいかを伝える。
- ・ 作った手順を使い、必要な点を直す。

請求書ツールは、入力から保存まで試す

動画の該当箇所 32:01 / タップして開く

制作例の一つが、見積書と請求書を作るツールです。自分の基本情報、取引先、日付、振込先などを入力すると、書類の表示へ反映されます。印刷画面からPDFとして保存する機能に加え、内容をコピーして連絡に使う機能も付いています。

複数の取引先の情報を保存し、選ぶと切り替わる仕組みも見せています。仕事のたびに同じ情報を入力する手間を減らす、小さな業務改善の例です。請求書を作ることが面倒な人にとっては、入力項目と保存先がまとまっていることが価値になります。

動画はツールの動作を紹介する内容で、個別の請求書の税務上の正しさを確認したものではありません。使うときは、自分の取引で必要な項目や金額が合っているかを確認する段階が残ります。見た目の書類ができたことだけで、仕事として完了したとは判断しません。

- ・ 基本情報と取引内容を入力する。
- ・ 表示へ正しく反映されるか確認する。
- ・ PDF保存や内容のコピーを試す。
- ・ 取引先を切り替えたときの情報も確認する。

試作品の見た目と、中の処理を分けて確認する

動画の該当箇所 49:00 / タップして開く

後半の手相を題材にした娯楽用ツールでは、画像を読み込めない場面や、別の人にも似た文章が返る場面がありました。作り手自身も、同じ手相なら同じ結果にするという指示が広く解釈されすぎていないか、内部で使うAIの選び方に問題がないかを確認しようとしています。

この例で分かるのは、サイトを作るAIと、そのサイトの中で毎回文章を返すAIが別の場合があることです。ページの表示が整っていても、入力の形式、判定の流れ、内部のAIへの依頼まで確かめる必要があります。占い結果の正しさを示す例ではなく、完成したように見えるツールにも検証が必要だと分かる実演です。

- ・ 複数の入力で試す。
- ・ ファイル形式や画像の読み込みを確かめる。
- ・ 結果が同じになる理由を確認する。
- ・ 見た目の制作と、内部のAI処理を分けて直す。

実践の進め方

01 作業する場所を準備する

プロジェクトとフォルダーを用意し、成果物の置き場所を決めます。

動画 13:00

02 一つの完成物を依頼する

作りたいページや道具の目的を伝え、必要な画像や過去の見本を渡します。

動画 5:00

03 実際に操作して確認する

表示だけでなく、入力、ボタン、保存したファイルまで確認し、必要な修正を伝えます。

動画 33:00

04 繰り返す仕事を整理する

定期的な調査はオートメーションへ、同じ形式で作る作業は見本を使ったスキルへ整理します。

動画 30:00

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部の活用例】この資料を根拠に、私がAIエージェントへ任せる最初の仕事を考えてください。記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めてください。繰り返している作業、使える見本、欲しい完成物と保存場所を確認し、最初に作るものと動作確認の項目を整理してください。動画に出た設定名や機能を現在も同じと断定せず、必要な確認を分けてください。

資料について

- ・ 動画の設定画面と制作実演を整理した資料です。
- ・ 利用できる機能、料金、上限、画面は撮影時点のものです。
- ・ 紹介ツールには試作品が含まれ、動作や出力内容の確認が必要です。